



**第7回祭りあしや**  
さわやかな秋晴れとなった11月6日、芦屋海浜公園で、祭りあしやが盛大に行われました。この日は、町内マラソン大会やあしや砂像展の最終日ということもあり、過去最高のにぎわいとなりました。



▷泉山磁石場でガイドより説明を受ける



### ふるさと再発見

## 芦屋歴史紀行

その二百四十七  
芦屋町郷土史研究会の  
町外研修

芦屋町の文化・歴史に誇りを持ち、古に思いを馳せることを旨とする会があります。芦屋町郷土史研究会です。会は昭和29(1954)年に設立され、初代会長は南画家で郷土史家であった岩崎天外でした。町の文化行政との関係も深く、歴史民俗資料館の開設や『増補改訂芦屋町誌』の出版にも大いに関わりました。活動としては、機関誌『崗』の発行。『崗』は昭和47(1972)年に創刊され、現在41号まで刊行されています。そのほか外部講師を招聘して行う講演会や町内外の史跡をめぐる研修会などを行っています。ただ近年は会員数が伸び悩み、新規会員を積極的に募集しているところです。

今年度の町外研修は「やきもの里400年目の有田を訪ねて」と題し、佐賀県有田町と長崎県波佐見町に向かいました。ここで有田と芦屋の関係についておさらいです。江戸時代の有田や波佐見で焼かれた陶磁器は、伊万里港から出荷されました。伊万里は全国から買い付けに来る商人たちでにぎわいをみせていました。その商人たちの中で最大の買い付け量を誇ったのが芦屋・山鹿の商人たちで、伊万里とは長い結びつきをもっていました。彼らは旅行商人と自称し、北海道松前藩から江戸・大阪・瀬戸内まで日本中をその商圏とし、「全国未踏の地なし」と誇りました。旅行商人の活躍した名残は町内至る所に残っています。例えば伊万里商人が寄贈した神武天皇社や岡湊神社境内の灯籠、芦屋の砂浜に打ち上げられる有田や波佐見の陶磁器、芦屋と伊万里に共通する古い祝い唄など、その交流の歴史を垣間見ることが出来ます。

話を町外研修に戻します。今回は、有田町のボランティアガイドである地域歴史資源デザイン研究会の八尋さんにご案内いただきました。まず有田町歴史民俗資料館で焼き物や有田の概略を伺い、その後資料館裏手の泉山磁石場へ移動しました。2000年以上かけて採掘された跡が広大な空間となり、人の営みと伝統工芸の重みを伝える国の史跡となっています。その後、天狗谷窯跡、陶山神社、山辺田遺跡、畑ノ原窯跡と回りまわりました。いずれも有田窯業の歴史と深く関わる史跡ですが、一般的な観光で訪れることはあまりありません。現地の歴史に精通したガイドと回る醍醐味といえるでしょう。

今年是有田焼創業400年であり、有田町内の至る所でイベントが行われています。今回は、佐賀県指定文化財となっている有田異人館の修復お披露目会に参加することができました。館内では柿右衛門や今右衛門などの器に花を生ける展示が行われていました。まちかで一流窯元の作品を堪能でき、参加者も十分満足された町外研修でした。

(文・芦屋歴史の里)

◎もつと芦屋町郷土史研究会を知りたい人は、芦屋歴史の里(☎2222局2555)まで問い合わせてください。

(鑑守)

この広報は、再生紙を使用しています。

まず有田町歴史民俗資料館で焼き物や有田の概略を伺い、その後資料館裏手の泉山磁石場へ移動しました。2000年以上かけて採掘された跡が広大な空間となり、人の営みと伝統工芸の重みを伝える国の史跡となっています。その後、天狗谷窯跡、陶山神社、山辺田遺跡、畑ノ原窯跡と回りまわりました。いずれも有田窯業の歴史と深く関わる史跡ですが、一般的な観光で訪れることはあまりありません。現地の歴史に精通したガイドと回る醍醐味といえるでしょう。

今年是有田焼創業400年であり、有田町内の至る所でイベントが行われています。今回は、佐賀県指定文化財となっている有田異人館の修復お披露目会に参加することができました。館内では柿右衛門や今右衛門などの器に花を生ける展示が行われていました。まちかで一流窯元の作品を堪能でき、参加者も十分満足された町外研修でした。

先日、遠賀郡内と中間市の広報担当者が集まり、地域おこし協力隊の長島さん(元カメラマン)を講師に迎え、マニュアルモード(以下、Mモード)でのカメラの撮影方法を伝授していただいた。以前から私も火花だけはMモードで撮影していたが、Mモードはプロが使うもので、火花の撮影以外、自分が使うことはないと思っていた。しかし、Mモードで撮ると、「思い通りの写真が撮れる」とのこと。しかし、「難しい」というデメリットも。それでも、いい写真が撮れるならと、現在、鋭意、悪戦苦闘中。

(福田)

▼数年前に別々の場所で2人の友人に再会しました。私が芦屋町で楽しく仕事をしていることなど近況を話すと2人も開口一番「砂像の芦屋町ね」と答えました。芦屋町の第一印象は「砂像」だと強く認識。しかし、「砂像もすごいけど、春は海岸線で磯遊び、夏は海水浴に火花、秋は砂像に美しい夕日、魚は美味しいし、なんといっても芦屋釜がすごいことになってる」と一気にPRをする私。芦屋愛が止まりません。(芦屋釜のすごさは8ページの「まちのわだい」を読んでください)